

## 医療施設の医療提供に係る病床機能の分化・連携のあり方

## 1 地域医療構想での位置づけ（構想からの抜粋）

## 《現状と課題と、2025年にあるべき医療提供体制を実現するための施策（村山）》

現状と課題	医療提供体制を実現するための施策
<p>○肺がん、乳がん、肝がん、化学療法、放射線治療、糖尿病、小児医療、周産期医療の入院患者については、最上・置賜構想区域の患者を受け入れている現状にある。</p>	<p>○難易度が高いがん治療や高度な放射線治療、緊急の治療を要するもののうち専門性が高いもの、小児医療や周産期医療のうち特に高度な医療については、山形市内の三次医療機関を中心にその機能を集約化し、最上・置賜構想区域内も含めた役割分担や連携体制を構築していく。</p>
<p>○現在の病床数と推計による必要病床数を比較すると高度急性期、急性期が過剰であり、回復期が不足する状況にあるため、将来の医療需要に対応する体制整備が必要となっている。</p> <p>○西村山地域及び北村山地域において、施設の老朽化により建替時期の迫っている病院がある。病院経営を巡る環境が厳しさを増していくと見込まれる中で、高額な施設や医療機器等の整備、これらの医療に必要な人材の確保、地域における効率的な整備のあり方について検討する必要がある。</p> <p>○西村山地域及び北村山地域の入院患者数は現在においても減少傾向にあり、県立河北病院、寒河江市立病院、朝日町立病院、西川町立病院、北村山公立病院の西村山地域や北村山地域の病院では、病棟によっては既に病床の利用率が低い医療機関もある。</p> <p>○人口は減少するものの、東南村山地域の後期高齢者が増加するため、2025年の入院患者の総数は増加が見込まれている。また、入院患者数が多いがんや脳卒</p>	<p>○西村山地域や北村山地域の基幹病院においては、山形市への高速道路等のアクセスも考慮したうえで、山形市内の三次医療機関や基幹病院との連携体制を強化し、地域に必要な診療機能に重点化を図ったうえで、病床規模の適正化を進めていく。</p> <p>○西村山地域や北村山地域の非稼働病床や病床利用率の低い病棟を有する病院においては、地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟など回復期機能への転換や充実、病床規模の適正化を進めていく。</p> <p>○肺炎、骨折など回復期に繋がることが多い疾病の治療、急性期後のリハビリテーションについては、地域の基幹病院以外の二次医療機関を中心に回復期機能の病床を確保していく。</p> <p>○円滑な在宅医療への移行を進めていくうえで必要となる回復期機能など、不足が見込まれる病床や、在宅医療等に適切に対応できる施設などへの転換を促進していく（施設・設備の整備支援など）。</p>

<p>中等による入院患者数の増加も見込まれている。</p> <p>○人口構造の変化により、肺炎や骨折による入院患者の増加率が高く、妊娠・分娩による入院患者は減少することが見込まれている。</p>	
---	--

## 2 村山区域内の動き

### (1) 山形済生病院

平成 30 年 4 月の運用開始に向け、急性期病床 100 床を回復期リハビリテーション病棟 50 床と地域包括ケア病棟 50 床に転換するための増築工事を実施中。

### (2) 山形市立病院済生館

近年の入院患者数の状況や地域医療構想を踏まえ、平成 29 年 1 月 1 日付けで 8 階西病棟を閉鎖することなどにより、許可病床数 585 床のうち急性期病床 57 床を減床し 528 床とする。

### (3) 北村山公立病院

急性期から回復期、在宅医療に至るまで、一連の医療サービスを北村山地域において総合的に確保するため、老朽化したリハビリテーション施設の改修を平成 29 年度に予定している。

## 3 今後の検討の方向性（案）

地域の病床機能の分化・連携の推進を図るため、地域保健医療協議会の下に課題毎に関係医療機関で組織する病床機能調整ワーキングを設置することができることになっている。

このため、北村山公立病院について、病棟再編と病床規模の適正化計画が固まった時点で、北村山地域内における各病院間の病床機能の分化・連携と、山形市内の基幹病院との連携体制の強化に向けた具体的な調整を図るため、関係する病院による病床機能調整ワーキングを、第 2 回の本協議会の承認後に設置し協議を行っていく。

また、各医療機関が自主的に病床機能の分化・連携を進めていくことを前提として、その他の地域や医療機関についても、改築や大規模改修などによる病床機能の分化・連携に関する具体的な調整が必要になった場合には、病床機能調整ワーキングを設置する。